



改善提案委員会より

大田 常務



改善提案表彰案内

スタッフの皆様には日々「誠意と努力」で各現場でご尽力頂き、感謝申し上げます。
今回は、改善の目的の一つにある業務の効率化を図る上で、省いてはいけない三つの視点について、お話したいと思います。

業務効率化に着眼し過ぎるあまり、スピードアップを試みていつものプロセスを省いたら、ミスが発生して結局仕事が終わるまでの時間は変わらなかったという経験はありませんか？

仕事を早く終わらせようとするあまり、チェックが疎かになってミスを連発した、その仕事をする意味を深く考えずこなすだけでクオリティが一向に上がらない、といったことでは、本末転倒になります。

そこで、以下の3つを大切にすることで、仕事の質を確保したうえで業務効率化が図れ、真の意味での「生産性向上（改善）」が実現できます。



『考える時間』

効率を上げるには「慣れたやり方の方が早く終わる」と考えがちですが、現状の仕事のやり方のままで放置してしまうと、いつまでも根本的な改善がされません。今までのやり方を「疑い」、もっとよい方法はないか、多面的な視野に立って考えてみる時間は省かず、

どうすればより良い改善となるか、常に考え、工夫を凝らすことが必要です。



『ジャストコミュニケーション』

過度のコミュニケーションは効果的な業務改善を妨げる要因となる場合がありますが、適切なコミュニケーションは生産性の向上に欠かせません。

やり過ぎ・少な過ぎのコミュニケーションを避け、必要なものを、必要なとき、必要なだけ伝える「ジャストコミュニケーション」を心がけましょう。

また、仕事の指示や依頼をしたら、あとはただ相手からの報告を待つのではなく、その結果を自ら「取りに行く（確認する）」ことも重要です。最終的な結果報告だけでなく、途中経過も見ることで、過剰品質や方向性の誤りで生じるムダを未然に防げます。



『チェック体制』

仕事を早く終わらせようとして安易な手抜きチェックをすると、ミスや不正が発生します。業務フローの中にチェック機能を組み込む、リスクの顕在化を極力防ぐために定期的にチェック担当者を変えて確認するなど、チェック体制を見直すことで仕事が上手く進みます。チェックリストやマニュアルも定期的に更新するとよいでしょう。

以上のような観点を日々の改善活動の参考にしてみてください。

引き続き、皆様からの改善提案をお待ちしております。

品質委員会より

坂本 次長



クリーンスタッフの使命について No.3

○就業中のマナー

お辞儀

就業中は、ビルオーナー、テナントの社員様、他にご利用のお客様等様々な方と関わります。行き届いた清掃はもちろん、挨拶や言葉遣いがビルの印象を与え、お客様にさらなる居心地の良い空間を提供します。

①会釈

身長と同じ距離にポイント（目線）
腰を曲げて目線が身長と同じ距離に来る
（挨拶は、おはようございます等）

②敬礼

60cm程先にポイント（目線）
（挨拶は、おはようございます等）

③最敬礼

足元にポイント（目線）
（挨拶は申し訳ありません等）



お客様と会話をする場合は、作業の手を止めて、キビキビとした態度と言葉が必要です。心を込めて、挨拶しましょう。

-例-

顔を合わせたときは、

明るく「おはようございます」

指示や依頼を受けたときは、

素直に謙虚に「承知しました」

お礼を言うときは、

素直に謙虚に「ありがとうございました」

お待ちいただくときは、

明るく「お待たせいたしました」

注意を受けたときは、

素直に謙虚に「申し訳ございません」

入退室するときは、

明るく「失礼いたします」

気持ちよく挨拶しましょう

総務部より

藤原 克行 取締役



日頃のご勤務、お疲れ様でございます。

・新型コロナウイルスの感染者数もピークアウトし減少してるとはいえ、まだ千人前後の感染者が日々確認されているので、気を緩めず引き続き感染予防対策はしっかり行って下さい。

・9月より給与計算業務を後藤事務所から本社総務部にて行い、また紙出勤簿から携帯電話を利用したWEB勤怠に移行（一部の方は従来通り紙出勤簿）しておりますが、まだまだ総務側も不慣れな点が多々あり、悪戦苦闘しています。しっかり作業が軌道に乗るよう頑張ります。

・毎年恒例の給与年調事務・ストレスチェック実施等も控えております。スムーズに事務処理が行える様、皆様のご協力の程、よろしくお願い致します。

2022年10月26日
ピアサービス株式会社
取締役社長 佐藤克徳

社長就任のご挨拶

このたび取締役社長に就任いたしました佐藤克徳でございます。
入社25年目という節目の年に社長の大役を拝命し、身の引き締まる思いです。
役職が変わろうとも初心を忘れることなく、謙虚にして驕らず、社員一丸となつてピアサービスを次のステージへ押し上げるべく、信念と覚悟を持って努力を続けて行く所存です。

思い起こせばピアサービス入社前面談の際、現会長より「目の前の常識を当たり前と見過ごさず、社会や顧客にとって役にたてる事を考え抜くことからビジネスチャンスは開ける」と、当時のクロネコヤマトのクール宅急便誕生秘話や銀行窓口の時間延長の話を変えて教わったことを今でも鮮明に覚えています。
この言葉を信条として今まで仕事に向き合ってきたが、特にここ数年の情報処理技術の進展、働き方や雇用を取り巻く環境、環境負荷低減への取り組み、多様性への対応、そして直近では新型コロナウイルス感染症対策と、かつての「10年ひと昔」という言葉の定義は全く当てはまらず、ややもすれば1年どころか半年で今までの常識や価値観が時代遅れになってしまうほどのスピードで刻々と社会は変化しています。

ピアサービスもまた、業界特有の温室環境の中で「茹でガエル」にならないよう、常に危機感を持って常識を疑い、世の中の変化やお客様のニーズをつかみ、即断即決即実行によって信頼を勝ち取らなければなりません。
その為には社員ひとりひとりのアンテナの感度を高め、適切にチューニングする必要があります。
そして、社会の仕組みや様々な価値観が変化を遂げている「今」を大きなビジネスチャンスと捉え、ビルメンテナンスの枠に囚われず、豊かな発想と行動力で新たなサービス分野を開拓するとともに、顧客の視座で課題解決に取り組む続けることにより、業界のゲームチェンジャーと言われるくらいの存在感を示す会社へと進化させたいと考えています。

社長交代の今、顧客からは会社組織としての地力、柔軟性と機動力、働くことへの想いや熱が、どれだけ私たちにあるかを試される、見極め期間であると自覚しています。
このメッセージにより、従業員の皆さんひとりひとりが、ピアサービスの更なる発展のために欠かせない原動力であることを再認識すると共に、今後の行動に少しずつでも変化が加わればうれしく思いますので、ご協力のほど宜しくお願いいたします。